

大腸癌研究会プロジェクト研究
『肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究』
第 10 回会議議事録

《日時》2022 年 7 月 7 日 12:15-13:15

《会場》浜松町コンベンションホール 5F 大ホール B ※会場と Web のハイブリッド形式

《出席者》

委員長：山田一隆

プロジェクトアドバイザー：

委員：赤木由人、池秀之、池田正孝、石田秀行、石田文生、石原聡一郎（代理：野澤宏彰）、
伊藤雅昭（代理：塚田祐一郎）、伊藤芳紀、上野秀樹（代理：安部紘生）、大屋夏生、
落合淳志（代理：小嶋基寛）、金光幸秀（代理：高見澤康之）、川村純一郎、絹笠祐介（代理：山内慎一）、
小松嘉人（代理：結城敏志）、小森康司、坂本一博、佐々木慎、塩澤学、塩見明生（代理：賀川弘康）、
須藤剛、須並英二、高島淳生、富田尚裕、橋口陽二郎（代理：松田圭二）、長谷川誠司、濱口哲弥、濱田円、
肥田侯矢、平田敬治、平能康充、船橋公彦（代理：牛込充則）、前田耕太郎、増田大機、盛真一郎、
山口達郎（代理：高雄美里）、山本聖一郎、吉満政義

【50 音順】

オブザーバー：29 名

【敬称略】

《会議内容》

I) 議題 1. 「肛門管癌の病態解明と Staging に関する研究」進捗状況について

(1) 第 9 回プロジェクト研究会議事について

委員長の山田より、第 9 回会議議事の確認を行った。

(2) 主研究論文進捗報告について

委員長の山田より、本研究において執筆した 2 編の論文について報告を行った。

・“Characteristics of anal canal cancer in Japan”を執筆し、2022/7/22 に

Cancer Medicine. 2022; 11(14): 2735–2743.へ掲載予定。

・“Prognosis of anal canal adenocarcinoma versus lower rectal adenocarcinoma in Japan: a propensity score matching study”を執筆し、2022/3 に Surgery Today, 52 (3), 420-430 へ掲載された。

(3) 本邦における「肛門管癌取扱い規約」に関する討議について

委員長の山田より、本邦における「肛門管癌取扱い規約」に関する検討事項の報告を行った。

・ T4 症例（他臓器浸潤症例）の中でも 5cm を超える腫瘍の予後が不良であったため、

T4 をその腫瘍径によって T4a（T4 で 5cm 以下）と T4b（T4 で 5cm を超える）に細分類する

・ T4 の細分類を反映した Stage 分類の 1 つの案として

① Stage IIIA より予後良好である T4aN0M0 を Stage IIIA に分類する

② T3N1M0, T4aN1M0, T4bN0M0 を Stage IIIB に分類する

③ 特に予後不良である T4bN1M0 を Stage IIIC に分類する

とすることが考えられ、本プロジェクト研究の症例調査の分析ではこの分類が妥当と思われる。

大腸癌取扱い規約第9版において、肛門管扁平上皮癌については「肛門管および肛門周囲皮膚」のTNM分類（UICC 8th）が用いられている。

今後、本邦における「肛門管癌取扱い規約」の案として、「肛門管および肛門周囲皮膚」のTNM分類（UICC 8th）から上記の2点を修正することに関して規約改訂委員会とも連携を取りながら検討を進めていく方針である。

II) 議題 2. 副次研究について

(1) 副次研究テーマ（10研究）の報告

副次研究の概要について、各研究の解析担当者より報告された。

・愛知県がんセンター 消化器外科部

【テーマ】 Significance of Lateral Lymph Node Dissection in Squamous Cell Carcinoma of the Anal Canal

【発表者】 小森 康司先生

【目的】 肛門管扁平上皮癌における側方リンパ節郭清の意義を明らかにする。

質疑内容・意見

- ・側方リンパ節転移の評価は、サイズでされているのか。
⇒データにはリンパ節のサイズはなく、リンパ節転移（陽性/陰性）の診断のみであった。
- ・病理学的な側方リンパ節転移の危険因子として、すべての所属リンパ節転移ではそれ自体が側方リンパ節転移陽性を含んでしまうので、不適當ではないか、との意見があった。

・国立がん研究センター東病院 大腸外科

【テーマ】 肛門扁平上皮癌の放射線治療後遺残/再発病変に対する Salvage 腹会陰式直腸切断術の意義

【発表者】 北口 大地先生

【目的】 ・再発および遺残病変に対するサルベージ APR 後の長期成績を明らかにする。

- ・サルベージ APR を施行しなかった症例群との比較により、再発および遺残病変に対する、サルベージ APR の意義を明らかにする。

質疑内容・意見

- ・再発病変とは局所再発を対象としているのか。
⇒サルベージ APR に関する検討なので、局所再発を来した症例でサルベージ APR 施行群と非施行群を比較している。
 - ・サルベージ APR 非施行症例には、遠隔転移があるため手術が行えなかった症例が含まれるのではないか。
⇒ご指摘の通り、局所と遠隔臓器の再発により手術が行えなかった症例も含まれていると思われる。
 - ・今回の結果に類似した過去の報告はないか。
⇒遺残病変に対するサルベージ APR の効果がないとする報告は過去になく、NCCN ガイドラインにおいても遺残病変に対するサルベージ APR が推奨されている。今回の結果で遺残病変に対するサルベージ APR が推奨されない、とまでは言えない。
- 本研究のリミテーションとして、非常に古いコホートが含まれており、当時の水準で十分な CRT が行われているのか、を確認することができない。この点は、論文にも記載している。

- ・京都大学医学部附属病院 消化管外科

【テーマ】 肛門管扁平上皮癌に対する cStage ごとの治療法別長期成績

【発表者】 下池 典広先生

【目的】 ・手術 vs CRT の比較は過去にほとんどないことから、比較的最近の手術および CRT の長期成績を記述、比較する。

・cStage ごとの治療成績の違い、至適な治療方法を明らかにする。

質疑内容・意見

・NCCN ガイドラインにおける肛門管癌の標準治療は CRT だが、perianal の T1N0 病変に対しては局所切除も考慮される。この点について今回の研究から考えられることはあるか。

⇒今回はそこまで細かい検討はしておらず、Stage による違いについて解析を行ったが、やはり早期癌に対しては手術も考慮することができるのではないかと考えられる。

- ・東海大学医学部 消化器外科

【テーマ】 Histological Type からみた Squamous cell carcinoma, adenocarcinoma の特徴

【発表者】 茅野 新先生

【目的】 肛門管癌の分化度別の臨床的特徴および分化度と予後との関係を明らかにする。

質疑内容・意見

・肛門管の腺癌は大腸の腺癌と同様な結果であったが、扁平上皮癌の予後因子として「性別」が抽出され、男性の予後が悪い。また、本研究の他の副次研究の分析では、ストーマ造設率についても男性が高くなっている。

なぜ、扁平上皮癌では男性が悪いのかを考察に加えたほうが良いのではないかと、との意見があった。

- ・東京大学医学部 腫瘍外科・血管外科

【テーマ】 Local resection と radical surgery の比較 一適応病変は拡大できるか

【発表者】 村井 伸先生

【目的】 Local resection は cT2N0 までの症例に対しても許容可能か明らかにする。

質疑内容・意見

・今回の検討では P 領域と E 領域の症例を分けて分析しているのか。

⇒E 領域の症例が非常に少なかったため、今回は分けずに分析している。

・Tis であれば Local resection も可能だが、T1, T2 症例でも深くに浸潤している場合には Local resection は難しいのではないかと。Local resection と radical surgery で背景に違いはないのか。

⇒今回は、T 因子については大きさでしか解析していなかったため、深達度についても解析を行う。

・NCCN ガイドラインの perianal 病変に対する局所切除の適応に関しては分化度も考慮しているので、分化度についても解析してはどうか、との意見があった。

- ・神奈川県立がんセンター 消化器外科 (大腸)

【テーマ】 肛門扁平上皮癌における化学放射線療法の治療効果予測因子の検討

【発表者】 井田 在香先生

【目的】 現在第一選択とされている化学放射線療法先行が肛門扁平上皮癌のすべての病態において臨床的に妥当であるのか検討する

質疑内容・意見

・内腸骨系、総腸骨系リンパ節転移に関する治療の課題として他にどのようなことが考えられるか。

⇒今のところ目立ったものはまだ見つかっていない。

- ・東北大学病院 胃腸外科

【テーマ】肛門管癌症例における CRT 後の stoma free 期間に関する研究

【発表者】神山 篤史先生

【目的】肛門管癌症例における化学放射線療法の成績を stoma free の観点から検証する。

質疑内容・意見

- ・ stoma free に関して、QOL の評価は何かしているか。

⇒今回は Stoma free 期間が患者の関心事項だと考え、分析を行った。QOL に関しては調査されていなかったため、評価できなかった。

- ・産業医科大学医学部 第一外科

【テーマ】肛門管扁平上皮癌における T 因子とリンパ節転移の関連

【発表者】鳥越 貴行先生

【目的】本邦における肛門管 SCC のリンパ節郭清を伴った手術症例を対象として、T 因子とリンパ節転移の病理組織学的検討を行う。

質疑内容・意見

- ・ 253, 252 は領域外リンパ節転移とされているが、これらを領域リンパ節としてもよい、という結果か。

⇒極端に言えば、そのような結果だった。

- ・ Stage II の OS が 100%になっているが、他の報告と異なっているのではないか。

⇒今回は手術症例のみを対象としており、Stage II 症例は非常に少なかった点で異なるのではないか。

- ・順天堂大学 消化器外科学講座 下部消化管外科

【テーマ】高齢者肛門管扁平上皮癌に関する治療の現状について

【発表者】河野 眞吾先生

【目的】高齢者(70 歳以上)と若年者に分け、

1) CRT と根治切除術を選択した背景因子に差があるのか

2) それぞれの長期成績(OS)に差があるのか

統計学的に比較検討を行う。

質疑内容・意見

- ・ 高齢者で併存疾患等によって化学療法ができない症例に対して、放射線療法を単独で行うよりも手術を行うことも選択肢となりうる、という結論でもよいのではないか、という意見があった。

- ・ 生存曲線を見ると、生存打ち切り例がすべて死亡になっているのではないか。

⇒データを確認し、修正する。

- ・埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科

【テーマ】肛門管癌の遠隔転移の部位別頻度とその予後に関わる因子の解析

【発表者】松山 貴俊先生

【目的】肛門管癌遠隔転移の特徴と、遠隔転移を有する症例の予後に関わる因子(リンパ節転移の有無、部位を含めて)を明らかにする。

質疑内容・意見

- ・ 扁平上皮癌の分化度に関しては再調査しても分からないと思われるので、分化度不明例を除いて解析を行い、Discussion に加えたほうが良いのではないか、との意見があった。

(2) 副次研究の論文文化について（必要情報の詳細について）

事務局の杉本より、副次研究の論文文化について必要情報の連絡を行った。

- ・ **Authorship** については共著者の最後に、
本プロジェクト研究委員長：山田 一隆
大腸癌研究会前会長：杉原 健一先生
大腸癌研究会現会長：味岡 洋一先生

を入れていただくこと

- ・ **Acknowledgements** には、「本研究は **JSCCR** の肛門管癌の病態解明と **Staging** に関する研究の一部として実施しました」との文言を入れていただくこと
- ・ 副次研究を行っている **10** 施設には、研究進行のサポートとして **1** 施設当たり **3** 万円の補助金を提供させていただくこと

文責：山田 一隆